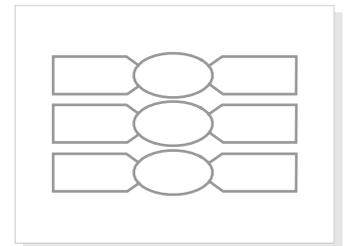


# キャンディチャート

## 目的のために使うスキルと思考ツール

- ・根拠のある予想をするために推論する
- ・「キャンディチャート」を使うと…



## 使い方

状況によって結果が変化するとき、それぞれの仮定に対する推論をして、その理由としてこれまでの知識や体験を関係付けることで、推論が問題（予想のテーマ）と同じ場合の仮定を予想とし、理由としたことを予想の根拠として見つけやすくなります。

仮定から推論したことに理由付けして予想の手がかりを探すために、キャンディチャートを使うときは、次のようにしましょう。

1. あめ玉の左の枠には「もし～なら」というような仮定を書きます。
2. 中央のあめ玉の枠には、仮定（左の枠）をしたときに起こることを推論として書きます。
3. あめ玉の右の枠には、仮定（左の枠）の状況と似ている場面と、それについて知っていることを連想し、中央の枠のように推論した理由を書きます。
4. 問題と同じ結果が起こると推論されるのはどんな仮定をした状況（予想）の場合なのか、その仮定と似たような場面について知っていることを手がかりとして関係付けることで、予想とその根拠が見つけやすくなります。

## 使用例 【巨大こいのぼりが持ち上がって泳ぐのはどんな風のときかを予想するとき】

1. あめ玉の左の枠には、風の状況を複数考え出し、「もし～なら」というような仮定として書きます。
2. あめ玉の中央の枠には、「それぞれの風のときに巨大こいのぼりはどうなるか」という推論を書きます。
3. あめ玉の右の枠には、動画や自分の知識や経験から連想したことをもとに、それぞれの仮定のときに中央の枠のような結果になると推論した理由を書きます。
4. 巨大こいのぼりが持ち上がって泳ぐという結果と推論される仮定の状況を予想とし、その仮定と似たような場面について知っていることを手がかりとして関係付けることで、予想の根拠が見つかります。

例：巨大こいのぼりが持ち上がって泳ぎ続けるのと、風が強いときのススキのゆれや台風の際の屋根が飛ぶことなどを結び付けると、強い風が続くことが関係あるのかも

※やるキットの記入例